

## 広島県における子供のわらべうたの現況

The Present State of Children's Songs in Hiroshima Prefecture

片 桐 功

Isao Katagiri

(エリザベト音楽大学教授)

This paper deals with the present state of children's songs in Hiroshima prefecture. Points discussed in order of appearance include 1. *The definition and system of classification of the songs*, 2. *Investigation methods* and 3. *Characteristics of ten distinguishing branches of the songs*. The children's songs in Tokyo, the San'in district in Shimane prefecture and Hiroshima prefecture are then compared. The paper concludes with a summary of the recent condition of children's songs in Hiroshima prefecture.

### はじめに

子供のわらべうたの研究はこれまでもよくなされてきており、全国各地にわらべうた研究家がたくさんいて、こと広島県に関しても歌詞の面では友久武文氏のすぐれた研究があるが、音楽学の面からの研究はこれまでほとんどなされてこなかったように思われる。筆者の知る限りこの面での先鞭をつけたのは原田宏司氏であって、歌われた時の言葉のアクセントの観点から一時期いくつか論文を書かれている<sup>1)</sup>。私の研究も音楽学の面からの追求であるが、特に主眼としたのは「広島県では現在、子供のわらべうたというものが一体どういう状況になっているのか」ということであり、できるだけ県内のあちこちの小学校を回って、今日の子供のわらべうたのおかれた状況を的確に把握しようと考えた。以下の考察では、まずわらべうたの概念と分類法を説明し、次いで調査の方法に触れ、さらに分野別に特徴をまとめた上で、広島県における子供のわらべうたの現在の状況を検証したいと思う<sup>2)</sup>。

### (I)

まず初めに音楽学の立場から見た子供のわらべうたについて述べてみよう。わらべうたをどう見るかは、国文学や民俗学などそれぞれの立場で微妙な違いがあるが、音楽学の立場では、子供が遊びの中で歌う歌というのが最も数が多く、通常これをわらべうたとよんでいる<sup>3)</sup>。そこでは子供にとってわらべうたは歌うための歌ではなく、むしろまりつきのまりや、なわとびのなわと同様に、遊びには欠かせぬ道具の1つとして考えているようだ。それから数は非常に少ないものの、遊びの中ではなく、年中行事の中で子供が参加し受け持つ歌（秋の亥の子祭りの歌など）とか、子供が自然や動・植物を歌った歌（くあした天気

な一れ〉、〈うさぎうさぎ〉など)もわらべうたに含めて考える。

しかしながら子守歌については、本来大人や子守娘が幼い子供のために歌う歌であって、子供自身の歌というわけではない。それ故に音楽的には子供本来の表現とは異なる性格をもっており、子供のわらべうたと大人の民謡との中間的性質が見られることから、わらべうたとは区別して考えたい。

またもう1つここで注意しておきたいのは、一口にわらべうたという時、これを歌うのは小学生など子供に限られるわけではないという点である。お年寄り(特におばあさん)が孫の世話などで、かつて自分が子供の頃歌っていたわらべうたを思い出して聴かせることもあるわけで、これを大人のわらべうたとよんで区別したい。なぜなら50年も60年も昔のわらべうたと今のわらべうたとでは、遊びの種類も曲種名も大分相違があり、一緒に扱うには無理があるからだ。従って今回対象にしているのは、お年寄りではなく現代の子供(特に小学生)ということになる。

次に子供のわらべうたの分類法について述べてみよう。わらべうたの分類法も立場によって相違があるが、音楽学の分野では小泉文夫編の『わらべうたの研究』に示された分類法を用いるのが一般的である<sup>9)</sup>。同書はわらべうた研究の出発点となった優れた研究で、小泉文夫氏率いる東京芸術大学民俗音楽セミナーが、昭和36年に東京都下23区の小学校より100校を選んで、東京の当時の子供たちのわらべうたを大量に収集・分析して、昭和44年に楽譜編と研究編の2巻本として刊行したものである。以後音楽学の分野では、同書に示された分類法を踏襲するのが一般的となっている。

それは、「0 となえうた」、「1 絵かきうた」、「2 おはじき・石けり」、「3 おてだま・はねつき」、「4 まりつき」、「5 なわとび・ゴムなわ」、「6 じゃんけん・グーチョキパーあそび」、「7 お手あわせうた」、「8 からだあそび」、「9 鬼あそび」と、0から9までの10種類に分けるやり方である。

この分類方式に基づいて、これまで様々なわらべうた研究が展開されたが、とりわけ昭和56年に刊行された水野信男編で、島根大学音楽学ゼミナール著の『山陰のわらべうた——中海周辺および隠岐・子どもの遊び歌資料集成——』は、小泉文夫編の『わらべうたの研究』の方針をそのまま山陰地方に適用した楽譜集で<sup>9)</sup>、調査は昭和47年から49年にかけて同じく100校の小学校を対象に行われており、極めて注目に値する。私見では楽譜集として信頼に足るものはこの2つであり、比較検討の対象として利用することにした。

## (II)

さて私自身の調査について述べるなら、表1に挙げたような生活文化の違う地域を県内よりいくつか選び、フィールド・ワークを継続して行っているところであるが、とりわけここでは平成6年の夏から9年の夏にかけて調査したデータに基づいて考えてみたい。このとき調査した第1の地域は広島市内の旧市内で、大通りに面していて人の往来が激しく、オフィスや商店街の密集した小学校を主に考えて、これまで幟町・基町・袋町・白島小学校の4校調べた。第2は広島市の可部地区、かつては可部町といっていたところで、昔は農村地帯であったのが、近年の団地開発によって急速にベッドタウン化し、人口の増加に伴って児童数も増えているところである。ここでは大林・三入・三入東・亀山・亀山南・可部・可部南の7校

調べた。第3は双三郡作木村地区で、面積の83%を山林が占める山間の過疎地であり、かつては林業の盛んな土地だった。ここでは作木第一・第二・第三の3つの小学校を調べたが、いずれも児童数が極端に少ない点の特徴である。第4は安芸郡下蒲刈町地区で、瀬戸内海に浮かぶ小島であるが、みかん栽培が盛んなのと漁業で生計を立てるほか、旅客フェリーで本土との行き来が容易にできるため、観光客の誘致にも力を入れているところである。ここでは下島・三ノ瀬・大地蔵の3つの小学校を調べたが、作木村ほどではないものの児童数がかなり少なめである。第5は東広島市の高屋地区で、近年ニュータウンが建設されて人口が次第に増えてきているところである。ここではまだ高屋西小学校1校しか調査していないので、あくまで参考資料ということになろう。

[表1：調査の対象とした地域と小学校名]

① 広島市の旧市内		
・ 幟町小学校	(全校児童数 306人)	平成9年7月調査
・ 基町小学校	(全校児童数 256人)	平成7年9月調査
・ 袋町小学校	(全校児童数 270人)	平成7年7月調査
・ 白島小学校	(全校児童数 839人)	平成7年8月調査
② 広島市の可部地区(旧可部町)		
・ 大林小学校	(全校児童数 106人)	平成6年8月調査
・ 三入小学校	(全校児童数 634人)	平成6年8月調査
・ 三入東小学校	(全校児童数 721人)	平成6年8月調査
・ 亀山小学校	(全校児童数 807人)	平成6年8月調査
・ 亀山南小学校	(全校児童数 466人)	平成6年8月調査
・ 可部小学校	(全校児童数 803人)	平成6年9月調査
・ 可部南小学校	(全校児童数 498人)	平成6年9月調査
③ 双三郡作木村地区		
・ 作木第一小学校	(全校児童数 29人)	平成7年5月調査
・ 作木第二小学校	(全校児童数 35人)	平成7年5月調査
・ 作木第三小学校	(全校児童数 28人)	平成7年5月調査
④ 安芸郡下蒲刈町地区		
・ 下島小学校	(全校児童数 43人)	平成7年7月調査
・ 三ノ瀬小学校	(全校児童数 45人)	平成7年7月調査
・ 大地蔵小学校	(全校児童数 37人)	平成7年8月調査
⑤ 東広島市の高屋地区		
・ 高屋西小学校	(全校児童数 650人)	平成8年6月調査
※ 全校児童数は調査の時点のものである。		

## (Ⅲ)

では『わらべうたの研究』に示された、0から9までに分類する方式に従い小学校別にそれぞれの遊びで歌われる曲種名を整理したい(表2参照)。

[表2: 18小学校でのわらべうたの分類]

曲種名	小学校名																		合計	
	職町	基町	袋町	白島	大島	三林	三入	三東	龜山	龜山	可部	可部	作木第一	作木第二	作木第三	下ノ島	三ノ瀬	大地蔵		高屋西
ひな祭りの替え歌	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	16
どれにしようかな	○	○	○	○	○				○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	15
あした天気になーれ	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○		○	14
お正月の替え歌		○	○	○	○	○			○	○	○					○	○	○		12
そうだあ村の村長さん	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○							11
森の熊さんの替え歌	○	○	○	○		○	○				○	○					○	○	○	11
1・2さんまのしっぽ	○		○	○		○			○		○	○			○				○	9
みっちゃんみちみち	○	○					○	○			○								○	6
アーララコララ					○	○	○		○		○									5
マジカルバナナ	○		○	○														○	○	5
からす(カエル)がなくから帰ろ								○							○	○	○			4
さよなら三角	○				○	○						○								4
アルプス一万尺の替え歌				○					○									○		3
いっちょろいっちょろ	○								○										○	3
サザエさんの替え歌	○									○						○				3
エッチスケッチ				○				○			○					○				2
バーカアーホドジマヌケ	○						○													2
いちじく人参					○															1
1・2・3, 2の4の5			○																	1
1は一生ぬけられない																	○			1
1枚2枚																	○			1
一本でも人参												○								1
ABCの歌の替え歌													○				○			1
女の中に男が一人													○							1
こがね虫は金持ちだ					○															1
ドレミの歌の替え歌																	○			1
バカアホチンドンヤ	○																			1
バカアホマヌケ				○																1
花子さん遊ば									○											1
一つ一人にはげがある										○										1
一つ二つ三つ四つ										○										1
へへへぶりんが									○											1
生麦生米					○															1
ままがつく					○															1
〇〇と〇〇がお風呂にはいって									○											1
ラッパパンツ								○												1
合計	13	6	8	9	11	9	9	12	7	8	9	7	3	4	5	10	7	7		

※ ○は収録できたものを示す。

小学校名		轍町	基町	袋町	白島	大森	三入	三入東	龜山	龜山南	可部	可部南	作木第一	作木第二	作木第三	下ノ島	三ノ瀬	大地蔵	高屋西	合計	
1 絵 か き う た	へのへのもへじ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	18
	棒が一本あったとさ			○	○		○	○	○		○	○	○	○	○	○					12
	星のカービー		○	○			○		○		○	○	○	○					○	○	11
	つるさんは	○			○									○					○		4
	ミミズが三びき			○					○										○		3
	ドラえもん							○										○			2
	にいちゃんが				○									○							2
	いっちゃんが							○													1
	おたこさん			○																	1
	ちびまるこちゃん																			○	1
	月夜の晩に																		○		1
	つるには																○				1
	ドンくん						○														1
	人の体			○																	1
丸尾君																			○	1	
丸書いてチョンお髭は友達														○						1	
丸書いてチョン縦々横々					○															1	
合計		2	2	6	4	2	4	4	4	1	3	3	3	6	3	3	5	5	2		
4 まりつき	あんたがたどこさ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	18
合計		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		

曲種名	小学校名															合計				
	職町	基町	袋町	白島	大島	三入	三入東	龜山	龜山南	可部	可部南	作木第一	作木第二	作木第三	下ノ島		三ノ瀬	大地蔵	高屋西	
5 な わ と び ・ ゴ ム な わ	お嬢さんおはいんなさい	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	18
	郵便屋さん	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	17
	大波小波		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	16
	いろはにこんべいとう	○				○	○		○	○										5
	一羽のからすが						○												○	2
	熊さん熊さん								○									○		2
	なわとびじゃんけん				○															1
	いちご						○													1
	いちご・人参・さんま・椎茸…																		○	1
	浦島太郎						○													1
ABCのキューピーちゃん						○													1	
きらきら屋						○													1	
きんし輝く日本の											○								1	
ゲーチョコキパー											○								1	
ごんべさんの赤ちゃん						○													1	
しょしょしょしょじ											○								1	
茶色のこびん						○													1	
ドロンパドンパ											○								1	
ペンタくん						○													1	
いるかはどんぶらこ						○													1	
らっせらー						○													1	
合計	3	3	3	3	6	11	4	4	4	4	7	3	2	3	3	3	4	5		
6 じ ゃ ん け ん ・ グ ー チ ョ キ パ ー あ そ び	最初はゲー	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○			○	○	○	○	15	
	ドンパッパ	○	○	○			○	○			○	○	○					○	9	
	じゃんけんでホイ	○	○			○				○	○	○		○					8	
	じゃんけんホイホイどっち隠す	○		○				○										○	4	
	ゲーチョコキパーで何作ろ	○				○												○	3	
	ゲーとパーで別れましょ	○																○	3	
	裏々表	○																○	2	
	おなががすいたら											○							1	
	ゲーなしじゃんけんホイ												○						1	
	じゃんけんゲー													○					1	
	せっせっせーのみそラーメン																○		1	
	戦争(軍艦軍艦ちょうせん軍艦軍艦ハワイ)	○																	1	
	ダブルじゃんけん																	○	1	
	ちっけた																○		1	
	図書便所			○															1	
にっぺでこびん											○							1		
ビームシュワッチ	○																	1		
桃太郎さん						○												1		
合計	9	4	3	1	4	2	3	2	2	4	3	3	1	1	1	4	2	6		

曲種名	小学校名															合計					
	職町	基町	袋町	白島	大島	三入	三入東	龜山	龜山南	可部	可部南	作木第一	作木第二	作木第三	下ノ島		三ノ瀬	大地蔵	高屋西		
7	アルプス一万尺	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	18	
	おちらかホイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	17	
	お寺の和尚さん	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	17	
	げんこつ山のためきさん	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	17	
お手	みかんの花	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○			14	
	茶摘み		○		○	○	○				○	○		○	○	○	○			11	
あ	ぞうさん	○				○														2	
わ	もんちっち	○		○																2	
せ	田舎のじっちゃんばっちゃん																	○		1	
う	ごぼうに椎茸人参								○											1	
た	十五夜さんのもちつきは			○																1	
	線路は続くよ								○											1	
	春が来た								○											1	
	合計	7	6	6	6	8	7	6	6	5	5	6	6	4	3	5	6	6	5		
8	指切りげんまん	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	17
	ずいずいずっころばし	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	16
	王様姫様豚乞食	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○		○	○	○	○	○	○	15
	天国地獄	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○		○		○		○	14
	おしくらまんじゅう	○	○		○	○	○	○	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	13
	なべなべ底ぬけ	○	○		○	○	○	○	○		○	○			○	○	○	○	○	○	13
	ちゃちゃつぼ	○	○	○	○		○	○			○		○	○	○	○	○	○	○	○	12
	だるまさんにらめっこしましょう	○			○	○	○	○	○		○									○	9
か	○○が便所に落ちた					○			○				○		○	○	○				6
	アイ・ラヴ・ジェイ・ケイ			○	○	○				○		○									5
	キャッチ					○	○				○										3
ら	エッチスケッチワンタッチ	○																○			2
	貨物列車	○								○											2
だ	あきすとせねこ			○																	1
	123, 4の2の5								○												1
	いもむしごろごろ									○											1
あ	エチケット																	○			1
	えらいばかおおばか								○												1
そ	おせんべやけたかな	○																			1
	おなべく											○									1
	この指止まれ	○																			1
び	スーパーエチケット																	○			1
	大根切って																	○			1
	でんでんむしむし					○															1
	ドレミ																		○		1
	ひらいたひらいた					○															1
	貧乏大臣										○										1
	ユー・アイ・ジェイ・ケイ	○																			1
	合計	13	9	6	11	6	9	10	8	8	7	8	7	5	5	7	8	4	11		

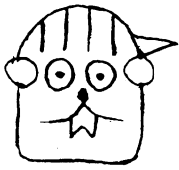
	小学校名 曲種名	織	基	袋	白	大	三	三	亀	亀	可	可	作	作	作	下	三	大	高	合
		町	町	町	島	林	入	入	山	山	部	部	木	木	木	島	ノ	地	屋	計
9 鬼 あ そ び	かごめかごめ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	18
	初めの第一歩	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	18
	花いちもんめ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	17
	あぶくたったにえたった	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	15
	オオカミさん今何時		○			○							○	○	○	○	○	○		8
	ロンドン橋			○		○	○			○			○		○	○			○	8
	とうりゃんせ	○		○					○						○		○			5
	猫と鼠					○	○													2
	ポコペン																○			1
合計	5	5	6	4	7	6	4	5	5	4	4	4	6	5	8	5	4	5		
総合計	53	36	39	39	45	49	41	42	33	36	41	34	28	25	33	42	33	42		

ここで分野別に特徴を見ていくな、まず「0 となえうた」では、上から〈ひな祭りの替え歌〉〈どれにしようかな〉〈あした天気になーれ〉などは、ほとんどの小学校にあるのが分かる。もともと「となえうた」は、となえごと・数を数えたり、数を読み込んだりする歌・悪口やはやし言葉・尻取り形式の歌・替え歌など、言葉自体を遊びとする分野であるが、表2からは替え歌がよく歌われているのに気付く。〈ひな祭りの替え歌〉が16校、〈お正月の替え歌〉が12校、〈森の熊さんの替え歌〉が11校、〈アルプス一万尺の替え歌〉と〈サザエさんの替え歌〉が3校、それと〈ABCの歌の替え歌〉とか〈ドレミの歌の替え歌〉も各1校あり、現代の子供たちは本来の歌詞を面白がって替えながらよく遊んでいる姿が窺える。それから最近のテレビ番組からの影響なのだが、尻取り形式で歌う〈マジカルバナナ〉が5校に見られるのも特徴であろう。

「1 絵かきうた」では、この分野は実に衰退しているのが分かる。1校あたり数の多いところでも6曲種、少ないところでたった1曲種で、平均して1校につき3曲種という有様である。それも普段あまりやっていないようで、〈へのへのもへじ〉がやっとな、あとは大抵最後まで絵を完成させることができないことが多かった。それでも特色のある例を拾うなら、〈棒が一本あったとき〉とか〈つるさんは〉とか〈ミズがびびき〉といった古典的なものがある中で、これもコマーシャルソングの影響のようなのだが、〈星のカービー〉が11校ある。それから三入小学校ただ1校にだけ見られた〈ドンくん〉は非常にユニークな例である。「パンが四つありました。お豆が三つありました。目が出て膨らんで、葉が出てボールに水が溢れ出て、引っくり返してほくドンくん。」という歌詞でドンくんの絵を描いていくが、最後の「引っくり返して」で実際に描いている紙面をぐるりと半回転させて絵を完成させるところに面白さがある（図1参照）。



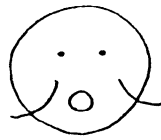
〔図1：広島県の絵かきうた〕



ドンくん



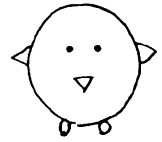
つるさんは



丸書いてチョン  
お髭は友達



丸書いてチョン  
縦々横々



星のカービー

次におはじきや石を机の上とか地面に放って遊ぶ「2 おはじき・石けり」という分野、及びおてだまやはねを上に放り上げて遊ぶ「3 おてだま・はねつき」という分野であるが、これらは採集することができなかった。おはじきとかおてだまとかはねつきという道具そのものが、今では近所のおもちゃ屋でもなかなか見当たらない状況なので、もはや消滅した分野と見てさしつかえないであろう。6、70代のお年寄りが伝えるおてだまの複雑な妙技は一体どこにいったのか、私は惜しい気持ちがある。もっとも小泉文夫編の『わらべうたの研究』及び水野信男編の『山陰のわらべうた』でも、この両分野は実はほんの数曲種しか楽譜が掲載されていないので、消滅の傾向はかなり以前から始まっていたと見るのが適切かと思われる。

また次の「4 まりつき」という分野も極端に数が減って、現在では〈あんたがたどこさ〉ただ1曲種しか見当たらない。その〈あんたがたどこさ〉はすべての小学校で歌われてはいるものの、最後までまりをつくのが至難の技で、普段あまりやっていないというのが現状のようである。この「まりつき」という分野は、『わらべうたの研究』で22曲種、『山陰のわらべうた』では50曲種もの楽譜が掲載されているので、衰退したのはそう遠い昔のことではないように思われる。

「5 なわとび・ゴムなわ」については、なわとびが比較的まだよく残っているようである。表2で〈お嬢さんおはいんなさい〉から〈なわとびじゃんけん〉までがなわとびであるが、〈お嬢さんおはいんなさい〉や〈郵便屋さん〉や〈大波小波〉は大抵の小学校にあり、〈いろはにこんぺいとう〉も5校で歌われていた。これに対し、〈いちご〉から〈ペンタくん〉までがゴムなわの遊びであり、曲種数はなわとびより一見多いように見えるが、これらのできるのはそれぞれ1校ずつにしかなく、しかも合計して三入小学校に7曲種、可部南小学校に4曲種、高屋西小学校に1曲種と、一部の限られた小学校にしか見当たらない。従ってゴムなわの遊びはほとんど消滅しかけているといったほうがよさそうである。

ところでそのゴムなわであるが、〈きんし輝く日本の〉は戦争の跡を引きずった曲種で、もとは〈紀元二千六百年の歌〉として第2次大戦中にできた歌である。実はゴムなわは第2次大戦中から流行した遊びなので、その名残が子供の遊びの中で今日までずっと続いていたことになり、考えてみれば恐ろしい話である。一方、〈いるかはどんぶらこ〉と〈らっせらー〉はゴムなわの変形で、ゴムなわの代わりに2本の棒の間を飛び跳ねるバンブーダンスといわれる遊びである。最近の音楽の教科書で扱われるものだが、学校教育で教わったものがそのままわらべうたに入った新しい種類の例として注目しておきたい。

さて「6 じゃんけん・ゲーチョキパーあそび」は、数の上では『わらべうたの研究』と同じ18曲種あ

た。これは比較的良好に残っているようにも見えるが、1校あたり平均して3曲種しかないで、むしろ衰退しているものと見るべきかもしれない。もっともその中にはなかなかユニークなものがあり、〈じゃんけんホイホイどっち隠す〉は両手のじゃんけんであるし、〈グーチョキパーで何作ろ〉は両手を組み合わせて「目玉焼き」とか「かたつむり」とか「ラーメン」などを作る遊びである。また1校だけであるが、〈戦争〉はハワイの真珠湾攻撃を感じさせるもので、子供たちが無邪気に遊んでいるだけにかえて根の深さを痛感する。

これに対し「7 お手あわせうた」は、一転して現代の子供たちに最も人気のある分野で、数の上でも『わらべうたの研究』の13曲種、『山陰のわらべうた』の14曲種と横一線の13曲種ほどある。しかも〈アルプス一万尺〉〈おちゃらかホイ〉〈お寺の和尚さん〉〈げんこつ山のためきさん〉はほとんどの小学校にあるし、〈みかんの花〉や〈茶摘み〉のような文部省唱歌をもとにしたお手あわせうたもよく残っている。また〈ぞうさん〉と〈もんちち〉も見ていてなかなか面白い遊びである。

それからその次の「8 からだあそび」も28曲種とよく残っており、これは『山陰のわらべうた』の33曲種よりいくらか少ないものの、『わらべうたの研究』の21曲種よりはむしろ多い数字である。「からだあそび」は自分のからだのどこか一部を使って遊ぶ遊びであるが、中でも左手の5本の指の指先と付け根を右手の人差し指で上下していく遊びが豊富で、〈王様姫様豚乞食〉〈天国地獄〉〈〇〇が便所に落ちた〉〈アイ・ラブ・ジェイ・ケイ〉〈エッチスケッチワンタッチ〉〈あきすとせねこ〉〈えらいばかおおばか〉〈貧乏大臣〉〈ユー・アイ・ジェイ・ケイ〉はこの例にあたる。またユニークな例として、この頃学校の集会などでなされる遊びが〈貨物列車〉で、これもテレビ番組の影響かと思われる。

最後に「9 鬼あそび」であるが、『わらべうたの研究』の18曲種、『山陰のわらべうた』の22曲種と比べて、合計9曲種は半数以下と少なくなっているものの、昔からよくある古典的な〈かごめかごめ〉〈初めの第一歩〉〈花いちもんめ〉〈あぶくたつたにえたつた〉の4曲は、大抵どの小学校にも残っているのが分かる。

#### (IV)

以上0から9の各々について見てきたが、ここでもう少し整理してまとめてみたい。まず、表3は『わらべうたの研究』や『山陰のわらべうた』の調査に比べて、今回どれだけわらべうたを集められたかを示したものである。総合計数の143曲種は、東京の230曲種や山陰の371曲種と比べて随分少ないのが分かる。もちろん今回18校しか調査をしていないのであるから、調査対象校をもっと増やしていけば、総合計数も増えてはいくであろうが、大抵は同じ曲種で重複することが多いと思われるので、果たしてどこまで増えるかは疑問がある。分野別ではすでに述べてきたように、広島では「7 お手あわせうた」と「8 からだあそび」がよく残っていて、他方「4 まりつき」の極端な衰退が目につくであろう。

[表3：わらべうたの分野別合計曲種]

	平6～9 広島 (18校対象) [1校平均]	昭47～49 山陰 (100校対象)	昭和36 東京 (100校対象)
0 となえうた……………	36曲種 [8]	78曲種	78曲種
1 絵かきうた……………	17曲種 [3]	77曲種	16曲種
2 おはじき・石けり……………	0曲種 [0]	3曲種	3曲種
3 おてだま・はねつき……………	0曲種 [0]	4曲種	5曲種
4 まりつき……………	1曲種 [1]	50曲種	22曲種
5 なわとび・ゴムなわ……………	21曲種 [4]	29曲種	36曲種
6 じゃんけん・グーチョキパーあそび……………	18曲種 [3]	61曲種	18曲種
7 お手あわせうた……………	13曲種 [6]	14曲種	13曲種
8 からだあそび……………	28曲種 [8]	33曲種	21曲種
9 鬼あそび……………	9曲種 [5]	22曲種	18曲種
総合計数	143曲種 [38]	371曲種	230曲種

次に表4は、18の小学校をわらべうたの総合計曲種数の多い順に並べたものであるが、一番多い職町小学校で53曲種、最下位の作木第三小学校に至ってはその半分にも満たないわずか25曲種である。かつて私がわらべうたを調べていた昭和50年頃には、県外の例ではあるが、1校につき100曲種を超えることも珍しくなく、70曲種前後は普通に採集できたことを思い出す時、全体的に随分少なくなったなという印象を否めない。

さらに表5は、地区別に平均を取ってみたのと、18校全体の平均を取ってみたものである。総じて少ない曲種数の中にもある程度の地域の差が出ているように思われる。児童数が多く、子供同士の接触する機会の多い広島市の旧市内や可部地区は平均してわらべうたの数が比較的多く、逆に過疎地で家と家の距離が離れていて、友達と接触する機会が少なく、家に帰れば兄弟でしか遊ばないという作木村地区はかなり少なめである。一方下蒲刈町地区は児童数は少ないものの、旅客フェリーで本土側と行き来が可能で、ある程度人と接触する機会があるため、平均したわらべうたの曲種数はその中間を示しているとは考えられないだろうか。

[表4：小学校別わらべうたの総合計曲種数順位表]

小学校名 (全校児童数)	総合計	地域
1. 幟町 (306人)	53曲種	旧市内
2. 三入 (634人)	49曲種	可部
3. 大林 (106人)	45曲種	可部
4. 亀山 (807人)	42曲種	可部
4. 三ノ瀬 (45人)	42曲種	下蒲刈
4. 高屋西 (650人)	42曲種	東広島
7. 可部南 (498人)	41曲種	可部
7. 三入東 (721人)	41曲種	可部
9. 白島 (839人)	39曲種	旧市内
9. 袋町 (270人)	39曲種	旧市内
11. 可部 (803人)	36曲種	可部
11. 基町 (256人)	36曲種	旧市内
13. 作木第一 (29人)	34曲種	作木
14. 大地蔵 (37人)	33曲種	下蒲刈
14. 亀山南 (466人)	33曲種	可部
14. 下島 (43人)	33曲種	下蒲刈
17. 作木第二 (35人)	28曲種	作木
18. 作木第三 (28人)	25曲種	作木

[表5：わらべうたの地区別平均と全体総平均]

(1. 東広島	高屋西小	[全校児童数	650人]	42曲種)
1. 旧市内	4校平均	[全校児童数の平均	418人]	42曲種
2. 可部	7校平均	[全校児童数の平均	576人]	41曲種
3. 下蒲刈	3校平均	[全校児童数の平均	42人]	36曲種
4. 作木	3校平均	[全校児童数の平均	31人]	29曲種
<hr/>				
全体総平均		[全校児童数の総平均	365人]	38曲種

## 結びにかえて

さて最後になるが、最近の子供たちの遊び場である校庭とか公園を見ていて気付くのは、何かで遊んで  
はいるものの、それは大抵わらべうたではないということである。かくもわらべうたはかなり衰退してい  
るのである。その衰退の原因であるが、子供たちを取り巻く生活環境の変化によるところが大きいであろ  
う。近頃の核家族化現象は老人から孫へのわらべうたの伝承を切断してしまったし、車社会の到来ととも  
に安全な路地の確保も難しく、またテレビ・ファミコン・パソコンの普及、及び塾通いなどで、仲間同士  
で遊ぶ時間も減少している。これではわらべうたの衰退も無理からぬところであろう。

一体私たちはこのままわらべうたを滅びるにまかせてよいのだろうか。わらべうたの中には、手先を器  
用にし、創造性を豊かにし、協調性を養う要素があるが、これらはいずれも現代の子供たちに欠けている  
ものばかりである。わらべうたによる音楽教育もこれまで随分叫ばれてきたが、わらべうたが滅びぬうち  
に、何とか見直しの機運を盛り上げていきたいと考える次第である。

<sup>1</sup> これに関しては例えば次の論考を参照。

原田宏司「芸備わらべ歌の音楽的側面」（広島民俗学会編『広島民俗論集——広島民俗学会発会十周年記念誌——』溪水社、1984、pp. 166—184.）

原田宏司「子どもの遊びと文化——わらべ歌の世界——」（『けんみん文化』第2巻第4号 [通巻第13号]、1986、pp. 2—4.）

また原田氏には次のような共著もある。

友久武文・原田宏司『日本わらべ歌全集19上・広島のわらべ歌』柳原書店、1984、233p.

原田宏司・片桐功「わらべ歌の旋律構造における地域性——言葉のアクセントと旋律の関係を中心に——」（『広島大学学校教育学部紀要』第Ⅱ部第7巻、1984、pp. 119—126.）

<sup>2</sup> この論文は、広島民俗学会第50回研究会（平成9年9月21日、於広島市中央公民館）で研究発表したものに、一部修正を加えて書き改めたものである。発表の時点から大分時間が経つのと、その後の調査によって訪れた学校数もどんどん増えてきたので、全く新たに執筆しようかとも考えたが、結論のおおまかな方向性は変える必要がないので、今回は最小限の修正にとどめた。

<sup>3</sup> これに関しては例えば次の論考を参照。

小島美子「わらべうた」（平野健次・上参郷祐康・蒲生郷昭監修『日本音楽大事典』平凡社、1989、pp. 55—58.）

<sup>4</sup> 小泉文夫編『わらべうたの研究』[楽譜編・研究編] わらべうたの研究刊行会発行、1969、565p.

<sup>5</sup> 水野信男編、島根大学音楽学ゼミナール著『山陰のわらべうた——中海周辺および隠岐・子どもの遊び歌資料集成——』「山陰のわらべうた」刊行会発行、1981、500p.